

ICTを用いた地域包括ケアシステムと薬薬連携を活用した外来がん患者サポートの新たな取り組み ～悪性リンパ腫患者の1例～

○山崎裕己¹ 巽清²
(1サン薬局桜井西店、2(株)関西メディコ)

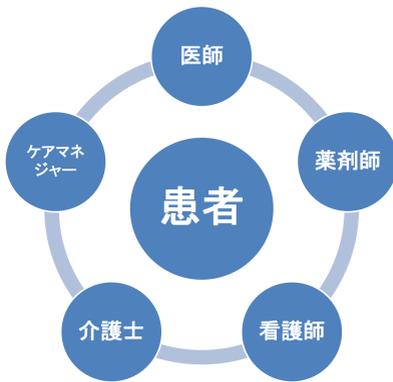
目的

調査方法

厚労省は医療・介護分野で情報通信技術(ICT)を推進している。ICTを活用する事で患者情報を多職種スタッフと同時共有する事が出来、より連携をスムーズに行う事が可能である。今回ICTを導入している地域包括ケアシステム加入中の患者で外来がん化学療法症例の症例検証。医療機関と連携し薬局薬剤師として患者サポート及び薬薬連携の充実に繋がるか調査した。

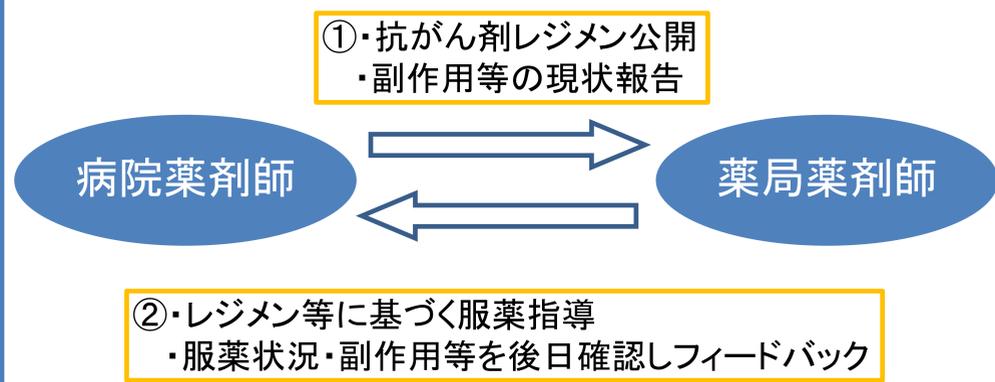
当薬局を利用し地域包括ケアシステムに加入中の対象患者の症例調査。

ICTを活用した地域包括ケアシステム



【ICTを活用する事で】
・患者の現状を一早く確認出来る
・多職種連携が効率良く行う事が出来る
・専門知識を患者に反映しやすい

薬薬連携(特定薬剤管理指導加算2)



症例

患者背景

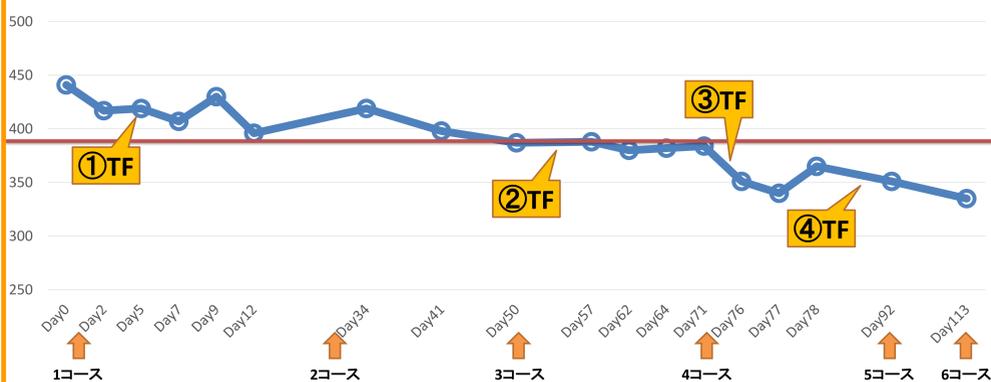
- ・60代男性
- ・身長174cm、体重76kg、体表面積1.91m²
- ・マントル細胞リンパ腫
- ・20XX年Y月よりR-CVP療法開始
- ・支持療法として、グラニセトン点滴静注・メクロプラミド注、ソルコーテフ®注、フィルグラスチム注orレノグラスチム注等を処方

介入内容

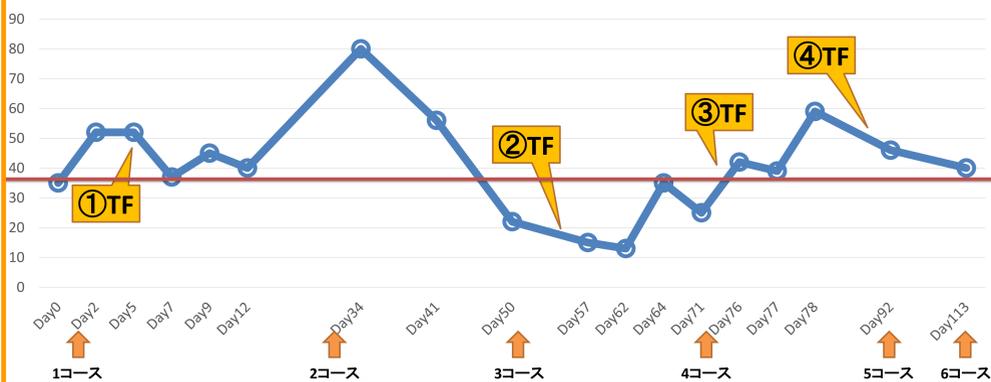
- Day5 :【①テレフォントラッキング(TF)】
・インフュージョンリアクション、発熱、消化器症状無し
- Day30: 2コース目。投薬時に体調確認
・出血、感染症状無く良好
- Day50: 3コース目。院内薬剤部より情報提供有り
・「皮疹ありフィルグラスチム注を休薬」
- Day55:【②テレフォントラッキング(TF)】
・貧血、感染症無し。皮疹も軽快し改善傾向
・以後レノグラスチム注使用
- Day75:【③テレフォントラッキング(TF)】
・軽度の消化器症状の訴えあり報告
・吐気止めの内服薬追加処方
- Day89:【④テレフォントラッキング(TF)】
・腰痛・胸痛有。レノグラスチム注による影響示唆
・鎮痛薬の追加処方
・手足の痺れ無く、食事問題なく摂取出来る
- Day:113: 6コース目。R-CVP療法は一旦終了

検査結果

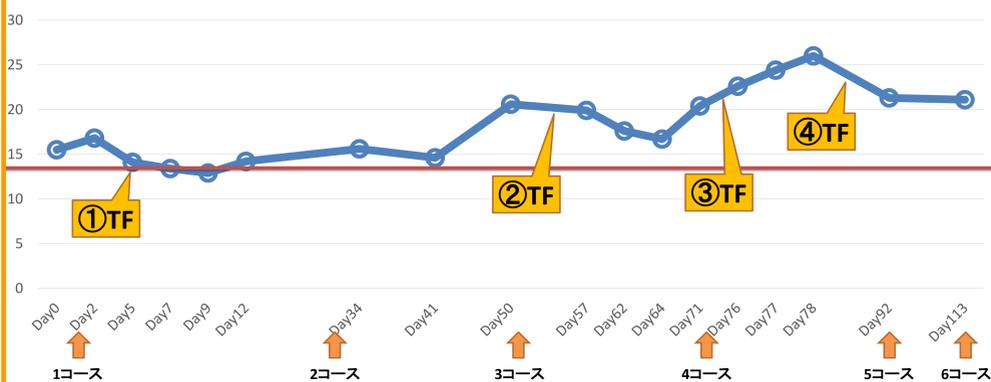
<赤血球>



<白血球>



<血小板>



考察

- ・地域包括ケアシステムにより院内での投薬状況、検査結果が確認出来る。院内の薬剤部と連携する事で薬剤師視点からの患者状況が報告。それにより患者の様態がより理解出来る。
- ・テレフォントラッキングを行う事で、薬局薬剤師として投薬から次回受診までの期間のフォローの重要性を強く考えるきっかけともなった。
- ・収集した情報を上手く活用する為の知識・経験、多職種との連携が重要であると感じた。それが患者の治療・サポートへの貢献に繋がり、薬局薬剤師の存在意義をより高める事にもあると推測出来る。

日本薬局学会
COI開示
筆頭発表者名: 山崎 裕己

演題発表に関連し、開示すべきCOI
関係にある企業等はありません。